

乳房炎防除は牛舎の 清掃と整理整頓から

▶自分でできる牛舎消毒とは◀

乳房炎の原因は細菌などの微生物の感染ですが、その発症には牛の健康状態や環境的条件が誘因として大きく関わっています。これまで、乳房炎対策として搾乳衛生やミルクングシステムについて紹介してきましたが、牛が二十四時間間接している環境が乳房炎の要因として大きくないはずはありません。今回は環境衛生について考えてみたいと思います。

乳房炎の原因菌は、感染の移行が搾乳中に生じる伝染性原因菌（黄色ブドウ球菌など）と、環境に常に存在し、いつでも乳房内に侵入して感染の可能性がある環境性原因菌（大腸菌群、環境性レンサ球菌など）に分けられます。では、環境中の細菌数を減らすことができれば、環境性乳房炎の発生を減らすことができるのでしょうか。答えは「イエス」です。そこで、環境中の細菌数を減らすためにはどうすればよいか考えてみましょう。

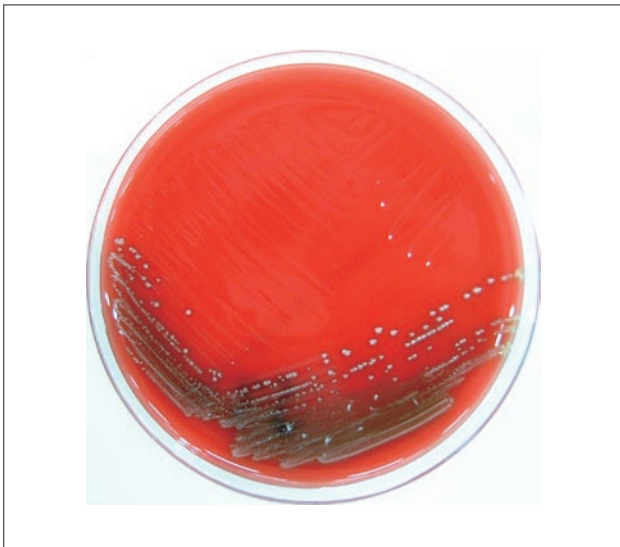
環境性原因菌による乳房炎は特に敷料と関係が深いといわれています。そのため、敷料を清潔に保つことが重要ですが、牛舎内を舞っている埃やクモの巣には細菌が大量に付着しています。牛床や敷料を含めた牛床全体を清潔にして牛舎の細菌数を減らすこと、すなわち牛舎の消

毒が環境性乳房炎の防除に有効であることが確かめられています。

しかし、単に消毒薬を牛舎内に散布すればよいわけではありません。正しい手順で行ってこそ効果が上げられるのです。また、どんなに徹底的に消毒しても残念ながらその効果が永久に続くわけではなく、例えば床面では長くとも約二週間しか持続しないことがわかっています。消毒の効果は消毒前の状況によって大きく異なることも確認されています。つまり、消毒面に付着した汚れが少ないほど、高い消毒効果が得られるということです。



黄色ブドウ球菌



環境性レンサ球菌



大腸菌

【効果的な牛舎の消毒手順】

1. 消毒作業の前に、徹底的な牛舎環境の清掃をします。汚れた敷料や残餌、糞尿などを舎外に出し、壁や柱にこびり付いた汚れやクモの巣、埃などもできる限り取り除きます。
もし牛舎内が余計なもので散らかってれば、それらの整理整頓をすることから始めましょう。通路上などに余計なものが散らかっていても日常の牛舎作業の妨げになりますし、消毒効果も不十分になります。
 2. 次に、洗浄可能な範囲をよく水洗します。手の届く範囲はブラシ洗いを併用し、高圧噴霧器を使用してできるだけ大量の水を用いて実施するほうが汚れ落ちがよく、消毒効果も高まります。
 3. 水洗後は一旦乾燥させます。消毒面が乾燥した状態のほうが、濡れているよりも消毒効果が高いからです。夏場なら半日程度の乾燥時間を取ることが望ましいです。しかし、冬場は乾燥が難しいといった難点があります。そのような場合は水洗・乾燥を省略して消毒薬の散布を行うこととなります。この場合、事前の清掃作業をさらに念入りに行ってください。ここまでする消毒作業の下準備です。
 4. 次に消毒薬を準備します。これも、動力噴霧器を用いて天井↓壁面↓床面↓尿溝の順に散布します。牛を牛舎に入れたまま消毒を行わなければならない場合には、基本的な手順は一緒ですが、天井や壁に散布した消毒薬が牛体にかかるので、毒性や刺激性の低い薬剤を使用します。また、牛の顔に消毒薬が直接かからないように注意して行います。
- 先に述べたように、これほどの手順で実施しても、床面での消毒効果は二週間が限度です。そのため、牛舎の消毒はできれば週に一回、少なくとも二週間に一回は実施する必要があります。
- しかし、実際にこのような手順で実施するとなると時間も労力もかかる大変な作業で、これほど頻繁に行うことは困難なのが実際でしょう。一度しっかりと徹底消毒を行ったうえで、その効果を長く持続させるため、毎日の除糞清掃後の牛床上に消毒薬を散布するとよいでしょう。
- 乳房炎防除は牛舎の清掃と整理整頓から。自ら実行できる牛舎の消毒。是非、習慣的に実施されることをお勧めします。

(虹別家畜診療課 山本 康了)